

科目名	哲学史特講	担当者	サイトウ 齋藤 ヨシユキ 宜之	期間	通年	単位数	4
-----	-------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>「哲学」とは「みずからの頭で考える」営為そのものです。しかしそれは、たんなる「一人よがり」であってはなりません。「哲学史」を学ぶことの意義とは、歴史上の優れた知性によって展開された様々な「思考」を「追体験」することによって、自らの思考力を鍛え上げることにあります。そのような学修を通じて目指してほしいのは、同時代において流通している「常識」をも相対化しうる巨視的な知性を身に付けることです。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 論理的・批判的思考力：得られる情報を基に論理的な思考，批判的な思考をすることができる。 問題発見・解決力：事象を注意深く観察して問題を発見し，解決策を提案することができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 テキスト読解には文脈を把握するということが重要なので，継続的にテキストに触れること。 関連する文献についても，積極的に参照すること。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 テキストおよび関連文献の読解に 25 時間以上，レポート提出とそれへのコメントを受けての再提出に 20 時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio 等を使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 レポートの提出とそれに対するコメント，執筆過程におけるメール等を通じての質疑応答。</p>		
スケジュール	<p>「基本教材 1」のレポートの草稿を 8 月中旬までに提出し，それに対するコメントを反映させた最終稿を 9 月中旬までに提出すること。</p> <p>「基本教材 2」のレポートの草稿は 12 月上旬までに提出し，それに対するコメントを反映させた最終稿を 1 月上旬までに提出すること。</p> <p>「レポート課題」の 1 と 2 を，同時に提出するか別時期に提出するかは自由とする。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	テキストの内容を正確に理解したうえで，自らの頭で考え抜かれた論述を高く評価します。
	平常評価	30 %	指導過程におけるやりとりでの積極性を高く評価します。
履修者への要望	<p>「哲学史」とは，完成品としての「思想」のカタログなどではなく，悪戦苦闘の「思考」のドキュメントです。まずは，受講者それぞれにとって切実な「問い」について考え抜いた哲学者を発見してください。</p> <p>そのうえで，自分の考えや常識的な通念はいったん括弧に入れて，テキストが発するメッセージそのものに忠実に耳を傾けることを心掛けましょう。</p> <p>レポート執筆時には，読み手に伝わる正確な文章を書くことを心掛けてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 熊野純彦 教材名： 『西洋哲学史 古代から中世へ』岩波新書，2006年 ISBN4-00-431007-5
	古代ギリシアから中世末にいたるまでの哲学史。タレスに始まり，プラトン，アリストテレス，ストア派，アウグスティヌス，トマス・アクィナス，オッカム等，多くの哲学について解説。記述は平易ながらも，従来の哲学史には見られない独自の知見が豊富に含まれています。
参考図書	受講者が課題として選択する哲学者に応じた文献を紹介します。推奨文献を知りたい方は，担当教員まで問い合わせてください。
履修上のポイント	まずは課題図書を通読したうえで，自分が一番おもしろいと思える哲学者(学派・テーマ)を見つけてください。その後で，必要に応じて関連する入門書なども読んでみましょう。可能であれば，その哲学者自身が書いた著作(一次文献)にもあたってみましょう。 古代・中世の哲学を学ぶ際のポイントは，そこの用語(「ある」「ない」「一」等)の一見の簡単さに油断しないということです。シンプルな言葉ほど根本的な概念だと思って注意してください。
レポート課題 1	教材文献に含まれる哲学者から一人を選択し，その思想について説明せよ。学派やテーマを選択するのも可とする。 <b>留意点：</b> あくまで思想の「説明」に徹すること。
レポート課題 2	教材文献に含まれる哲学者から二人(ないしそれ以上)を選択し，両者の思想を比較しつつ独自の考察を加えよ。 <b>留意点：</b> たんなる思想の説明にとどまらずに，受講者独自の解釈・考察・批判等を加えること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 熊野純彦 教材名： 『西洋哲学史 近代から現代へ』岩波新書，2006年 ISBN4-00-431008-3
	「基本教材 1」の続編で、近代から現代にいたるまでの哲学史。デカルトに始まり，スピノザ，ライプニッツ，ロック，バークリー，ヒューム，ルソー，カント，ヘーゲル，マルクス，ニーチェ，ベルクソン，フッサール，ハイデガー，ヴィトゲンシュタイン，レヴィナス等、多くの哲学について解説。難解かつ長大な哲学体系が，平易に，なおかつ凝縮して解説される良書です。
参考図書	受講者が課題として選択する哲学者に応じた文献を紹介します。推奨文献を知りたい方は，担当教員まで問い合わせてください。
履修上のポイント	全般的なアドバイスについては，「基本教材 1」と同様です。 とくに近代・現代の哲学を学ぶ際のポイントとしては，古代・中世の場合とは逆に，用語(「超越論的統覚」「情態性」等)の難解さに恐れをなさないということです。ただちには解らなくとも，粘り強くテキストを読んでいけば，少しずつ理解できるようになります。
レポート課題 1	教材文献に含まれる哲学者から一人を選択し，その思想について説明せよ。学派やテーマを選択するのも可とする。 <b>留意点：</b> あくまで思想の「説明」に徹すること。
レポート課題 2	教材文献に含まれる哲学者から二人(ないしそれ以上)を選択し，両者の思想を比較しつつ独自の考察を加えよ。 <b>留意点：</b> たんなる思想の説明にとどまらずに，受講者独自の解釈・考察・批判等を加えること。